續其袋
1952

1952

詩ハ物ヲ為ノリ和歌ハ然
ルトモ佛ノ心ヲトカムルトモ
古聖風雪カノ月花ヲ
兼乃ヲ風ヲ詠ジ数ヲ指シ
集ノ其ノ名ヲ題ヲ為
ハカリ也ヲ唐乃蚊詩ハ極
ホソヲノ柿ノ実又ハ

[illegible]
[illegible]十周の法味を傳て
我家乃[illegible]を[illegible]時
寛曆六丙子春三月

目錄

裝遊稿
胡塞記
或時序
其袋序
唐蚊贊
塔澤記
錢龍賦
児筆序
吊翁辭
黑茶椀銘

凡例

一 右の文類は先師草稿を淨書せし世より伝ふ
板本はいまだ遠事もはかゝんる

一 先師の発句を以て表八章六十餘連他国
素堂乃志ゆる人々を賞して追慕まとなる

一 名残れ一人一章追善の句まわらされも
日時の使奥を以て又四季とも

一 歩行乃稗世の表八章、先師寓居の地名八
鴻田のんくれ[illegible]かも

續其袋卷之上

雪中菴嵐雪誌

后学 蓼太選

裝遊稿

星こゝを名残の炬きゆゝと鐵鞋を踏くおとり
出ゝり掛羅を肩よやもの秡子紙法[illegible]
ひうゝ長ゆゝ雨乃紀一帖を荷ふ

おりて世人言るよ鰹をかあて〳〵福出の
伊達ものと和り彼一帖をとる所俗の会
芳孫よ案して俄に福牙の事乃を企る
貞享二年卯月上旬文よ初鰹出て一朝み
諸人とか市ふしのとく仰れい
先達に世ものと〳〵而こ乃福面とせんこ乃人
足柄山よ初鰹あてゝ出いつると我こんこの
菖蒲葵すこく若根湯をあつちちまち

蟻よ當鰹をあて芦宮れ鱶の肉これを親出
古代とたこ孫よ隅られく三浦乃富よ寄り東
人これを世せる白これをとり初ら百里來紀い
こ孫こ姉れ初ものを秘とものを
根情り紀ものいとこれ乃ものとせ
城刑の白小逸家ものとあうちゆりて諸て
紀孫こ世つきこ乃せり紀こり初先江の
ここそり乃ものこ

孤を捨るれもしやそれの山
とゝまりかゝぬ車坂推ゆり車をとゞく
わり彼し親しくもしる不踈大道無門
千着有道

帰る雁

京にゆる日は　勅使の西京ゆ　すとく
ゆるし菊を挿ひ心祝　ひよりを時と
はくろひ立ち右乃簾を称上わ

烏帽子の用意ゆんときらくとゆるれたらく
いまゝ少さて富士よ雲井の客人をうゝ
仕合ゆる旅ゆ条のひとら

不二詠

大井川のちゆ支流四の宿よ世ゝたゝ
桂ふ信のゆりゆる世の中を用ゆ紅とのよ
思ひうらく富へ行ゆ戸を手ゆて出る
一日如舟よ漕れて富ゆ紅ゆうかひ入て

豆腐をくりて夜中つくりける
風もなき淵を人に夜に杜若
ともし田の宿に日の暮る橋のけしき万く
行きれハ雨よくと伊勢の何方へ参る事ハ
桑名の渡のかきこえて業ハ白子川淵といふ
所ハ三日にハ三日をやしといふ牙を
おものへ見き海路ハいふとて行きる首。
上ぼらり津の朝なれがる後宜に志

国中は見たやと思ふ志縁つきて皆九中
まし帆ハ三四十人出舟を多くいおねの
新たに地藏乃丸すぎ業奥州山梨かいつの浦
難所ハいもし大坂の高人分んで蛤の
蒔絵のまく押合まり夜もすら膳にかゝらら
むかせく鳴六ッの汐合にして乗なしひして
一時なり走るに風何しきといふ程に出舟
十分ん帆を上るくと地さきの舟にかし走

舟い寄りすに如く棲西貴は志ろかくて い
いうはんとて海山をとんりけるかゝ舟を
ゝせり所を伊勢の沖中にて尾張ちり
志ろしめせる代なく志の海とゝふ西ゝりを
繪一冨斗の九志ゐにて人家百餘ゝ
いうさ良湊めきたれを海家よへゝうかゝ細
わるゝ光陰いと伊切よ絵ゝ憂をのまゝ
ゝくる暁ゝ去年のころ白ゝゝ波海水

波新ゝ西風をゝちはるゝふかゝ離色
小海ゝてゝ大悪の恵ゝれゝ引ちけるゝ
高く岸はりる海の風信ゝ八丈ゝ似ゝ
とゝゝ伊勢ゝ志の岩ゝ尾張八丈ゝ岩の岸ゝ
中はるゝに三日ゝ絶ゝくぬ事ゝれはうれ
うに精を求ゝたまけ食ゝいの風まちえ
なるゝて家ゝ紀ゝ家ひ家て姉ゝゝの沖立岩を
ゝん帝ゝ海ゝ又西風はゝく出ゝく樺ゝり出ゝ

南このめ山にうる神明ろくとゆ屋まもき
名乃敷々くれたちくいあもう髪よをえきく
たよあもを右ろくえく私中衆のきくよ
只猿石を役よいせの方ゆ行ろかうて志うくゆ
ゆくくの金ちりう山ゆ世涯の流ゆ
ろうよ人くの首ようけ孔を色ゆるこう称い身を
志川むるよ河さるへ板よ一枚よ男ろう
市浦宛角しくのしうえうい山てそ

仰めとて世ゆ俗ゆ役よをるうこ満ちそ
侍りるゆ浦さ紀を吹をゆれく世に離く
出くゆ世粒の方へ流されゆん知きんくを
の世今ちとく出ゆきゆ板
たりくとおしゆむ神よをそふゆ寸月中
ゆりを考ろよ丈十里ゆんとゆふ別宛考
ろりく時島ゆしう寄ゆう川ん年て中
を世ゆ義のやさわろ東ゆいあ川うく

立ゐりて
　蘆波に鶴ハ帰りけりに晴
けふハ二見の御塩をたふ日なりとて内外の
神垣も殊に浣渡おりしきに山田か原なと
ほやむかしの襟のけしき[illegible]る
　古枝にハ松ありたり晴る
義仲寺の師父の廟ハ去無絃志りて芭蕉
被ゆくも七とせも[illegible]を遣ぬ石碑やう

画く若生人を海へり
　色としけかりなる秋の風
か茂の御蔭ありひの神事といふもれハ
日吉乃や緑の社の祭に祭 堀[illegible]
見渡りぬこゑ木津にる火焼家の隅に奥芝と
志力の坂まして参りなる持つて行る
在や[illegible]是ハ家の家[illegible]しみるかハ
くりの芸臭持ね家に修[illegible]中参

ゑかくかりうれを
白光うて足這て光るや古墨を
かもの足掃いた神人浄衣よさしぬきしてくるの
何をたのまる帳の色よりてこそ生れを
きめ赤うて黒かきをうてうつ濃八只
青白うて言上ひつん
春うてるうてん見えやわし掃
如日のうへ言たてて春うてい芝生うて

碑る市ふのうたれ小雪かり立り
あやめ艸加茂乃仮橋今爰日
十四日八今爰歌七日ちお話所のはおかり
南日小川をうる人神輿を渡し御年八日
下て東爰うて詣り
切火を源て行て夜的ゑ
一種賞翫まて当門中よ南しり屋作て
味噌摺よ源爰鉢の降る

御ふくろ

ぬくのくるあるよ御ふくろや立の月

炬燵ふりて聴ふくも寒さかな　古風

なるべし

わ蛇くあるる夜美濃東海道

祇園舎の七日詳十四日乃山猿ゝ狩ゝ

ふんどのあるい萩畑いるゝ雲尾まいり

素袍よ左刀ゝ紀ゝ宮舎の辻よ床几を

赤色いかの雑色あるゝ清ゝくれる井の

房さけるる猿様ゝいてゝいかちんの上下着る

男筥黒漆乃様あるよ上わく粧をたくろひ

淑芳紙いまむ為て定られる下駄紙

改ゝ成儀義京を分る弁よ階ゝ白ゆ

車につゝく町ゝ引いの用ようゆりも

さて白ゆ

かゝる花盛

ある水のわかれ流れの源を
ふかを南へ四塚乃ほとりへ行とく
清原のおもかげ清るや藍畠
京より唐崎へ行とく志賀ゆき紅葉はいまるゆし
志賀紅葉とかりし被や[illegible]花

七夕

七夕や加茂川ほとる牛車
花ゆ井雅波度の磯鶴池の場乃立花敷の四季

いかゝ風流をくるかりあてみあり
秋風の坂口を解く立花式
九日は六乃条小路の笠冥途よかゝる
かゝとく清中の巻紙まきて桂[illegible]際を
巻く説をむかふ
市を写しくはとりは連結
ふゝ言よ皇むとりかきのこゝろさ
源く京へくとひる行よ田行をるひ

またによ向くさまれしかりひちなるゝ彼ハ竹さも
そのく累かくる二十年来みしそのゝ常なり
きのれの罪懺悔しつゝなりきりなとにその
志ある人よすゝめさせて六斎といふその然
記録なりけるうハ赤省何りんんなかれき
時もいもらひ得んといふを見聞て同来
たゝハ年頃念さおさて出入れと暮れハいふ
りしき新と粧記録なりり花よなりへき

是ハ菩提ハきりりれた受戒せられし雪山浄白と
改名しつ頭なりくし成ぬ宮よ乞食し
かしこ寺御きんりこそ経やきとて牲あ堂
浅宮ハ別よ志りらひてんとくそぬく
用意せしに病せちよさんて其年こえらハ
とく浅まりるハ何を祈く思ひ出てなきやう
見りきやうなといふその調ゑやこゝ九説むへて
説給ふこてり新乃えやこなり

十六日の山くの送り火の雲霧乃大み字
松崎乃妙法河原も麻うに出る頃て魂
おくりけりぬ

弼を焼火乃雲や秋の風

大文字見るとて
山の端を雲もはなれぬ大文字

星右の娘しるひをつくる
見物のさまれいはなれて歌うる

[illegible]
清滝乃林さくる庵か
いとに独をひとれてい高ひ[illegible]道の
ちまよ庵をとをくい二夜こ来[illegible]
弘乃家の梢もわまさかをぬ
法乃乃辻堂いと秋の風

帰庵
[illegible]をさせるよ[illegible]秋の風

[illegible]雲方丈へ行脚のいとまなき遠中
[illegible]の一句紙[illegible]
[illegible]

[illegible]

師問云去春望別送乙行語今秋
帰来相見了也即今如何是行脚
眼某答云觀音境裡古窠樹師云
窠無古今色作麼生無古今色的

一句某進云春色無高下花枝自
短長師領之休去某拜退参堂去

塔澤記

山野より温泉[illegible]
[illegible]三日[illegible]浄光禅院より日毎に[illegible]
寺の眺望[illegible]東北の[illegible]左右より
聳かゝ[illegible]蒼天を[illegible]誠に士峯遥に
[illegible]杉森の[illegible]の流れを[illegible]

如来ましまさんを補ひ眼をいさ佛
まします温泉乃郡住院の聖人とのゝ
大ゝ師仏法伝仏をへき高場ゆり書い
早雲瑞巖和尚の遺記して紙上筆蹟を
郡内立所塔の仏と中ゆゆ阿育王八万四
千の宝塔を作りゝ滅後の佛舎利を能
きり四天下よ分布しゝ給ひしゝの此日ゆとよ
出ける七ヶ所ゆその一つゝと仏塔の跡ハ禁ち

十八町の淡沼をのりゝく石ゆ萱ふきゆ一宇の
佛堂ゆり阿育山とゝふ阿弥陀寺ゆ四宇ハ
支那南源光師の筆跡中興開基草拓を
上人とき、ゝ桂化の人ゆ茂者多ゆ
岩窟の仏ハ杖支りゆ六町半山上ゝ
想夫ゝ毎ゆ雑炊汁沮ゝ行りゆ多ゆ
乃居ゝ源よ人ゝ百よりゝゆ遷化ゆし
とりゆ御人乃相寄ゆ御人ゆりゝ今ハ

菴と山の中腹より流おろされ置ち紀堂と
あれり容易行ふ事なかれ又東の
法と云ふ所也世に城ち伊湯ぬきれるよ
塔の宮ちの怪行りて今東北宮よ去給ふ也
その内東塔西塔と去れり有り
彼の弥陀寺より這登りて流中ぬてよ大
師と申す也く拾くいたやよ入ふお坂
あれうく開ふ所ふ入ふ仙薬も

山ちよ行りまくあるも
無乃かて行ふ同の西
この湯の世ちの記ちまれるちうの六十
年前寛永の比おろくきそ知りる異
入口より熱田拾枕の小社あり往昔ち山地よ
遠遥ちくいちの其ちの知人命し
南原風祭の四更彼地乃山をとこるよ滝宣
ちく示現ち南くれちくるの比怪ふ

が事ありて名湯なりと告まうしを
人いまゝ伝用ひもかくうわりて小四郎
一度試みし給ふて格橋おそれ
多くなりもの誘招やうくよ傳を
事ふ今の一乃湯 小川宗孟 今宗泉 村雲の湯もく
近日うゝやゝ集るものゝ六家而謂上湯之湯
背戸の湯流の湯かゝはゆるむ乃結の
流の湯いを多かれ出ちゝ中結赤洋中與

州の大守稲葉の法家人如此氏何しを
不仁乃然者く山湯よ来にその表記しの
神女十二人の者出ゆて答れるう病
ちゝ而よ金湯よ茶師十二神の擁護かて
法病悪像の拵ひむるうゝ湯見詩て
湯下（云ちゝく赤飯一器酒二樽をもせく
ゝ而しる其時乃使せ者今代宗孟
拵人事ゝ九十有餘機姫ゝ健て

大力量の羅漢かゝる仙祠の石思議す
ゆゑるゝ人こゝよりむしろかゝまちらしらい宣い
からむしゝ剥よ山路よさゝ色夜い寺四つく
拝の窟よ仙洞をあゆ

杉石よ寺ゝ林をある苔分
洞原ゝ石ゝ二百十日の清よおとろき見吹
命民拾小面ゝ見あるものゝ四弟りの
ゆ寺ゝ新さいりゝ分山星い

業ゝ清玄の下底金本香芦の湯を沸く
地獄巴りとゝゝ弟りゝ佛湯薑のゝく
命ゝ民ゝ地ゝゝゝい鉄樋の寺ゝ民
鉢沿面ちゝゝと宛ゝ山路の見窟地
こゝゝゝゝ宮ゝゝ梢光て苔乃紫
ゆゝ堀こゝゝ盤石拝ゝ女ゝ見ゝ佛色を
ゝゝ男ゝゝ兵ゝゝゝゝゝゝ
熱ゝゝ山色乃湯化蟠結の新墓民

ゆうかるゝ

已さん　修羅子作るよ　蓉

湯本白雲ちいゝ小田原小象の代の墓拓取るり

古墓めいはくくと墓（？）元祖彩九郎氏義い

永正十六ゝ年ゝ八月十六日よ　拓去りしとうや

今年雲貴殿端云大居士と若し前の戒名をあむ

白雲居士　云ふ名月のゝ名やさし

宗祇乃庵

石塔を拓くい体む一夢りか

長興山の滝乃ゝ上ゝ青蛇白象の奇石の写し

白雲居士と名ゝ上ゝ青蛇白象の奇石の写し

酷い二篇よ酷ゝ酷のり川流よ長く

れの流と二潭とふ泉れ柳りよたく

ゆとの流り行わりかしらを生きうかい高よ

小田原乃南ゝ山よ有く東西の出泉の

ゝ出よ貴ゝ山牛いゝ中くゝ寄て来せる

むつのくに新治郡にて加茂郡に行るとゆゑ後の方の東口はたゝく佛ゐ
三面の白地を地ゆきよりゆきまい新き
かきりこゝりて西美濃に石さんあさく
くりたちよ小雲より流を見られを
こゝりこゝり

砂礫よりこれ美や高地面
こゝ山名月い流れ大仏こゝ

四月い南をゆり佛頂珠

塞記

蜀山月流れ姑蘇艸臺孤雲空しく
却ゆ高田城説を傷ふ赤乃舟釣雲橋の
雲信よりかんこゝるとゝ雲の帰るを西を望
うはゆる殿仏ゝのこゝし国家ゆれを乳と
酒を菅代中ゝ山もるや板屋流ゝ

かりそめに客招くとも客人わすれ一本庵
ふりたる誰うぶ恨む籬の菓是竹とぶ
菓の一房棲油蟬　花を床乃上簡ち
任うまやむしうかりうり南窓よ月わの
声れうる宮色をかく讀ふ所も白露
桂ちれうる杉窓かし雨よ打当よわれく
松の板戸の油ふるるよ其人の号ありうを
菓ないろ〳〵古面へるる

絵の菓よ上ふ乾ふ傾ふ於塵ふ
杉山星ふ宮色ふ色よ面ちや楢ふらま
ちく新鮮よ到り菓庭ふ多くの言よ
かうこ宮祇色ふ庭掃ふ無音ふ
咽ぬ色のふ秋ふ洲ふ
胡桃ふ搾く鳥の嶺梨ふ浮村ふ乃ふ
宮山宮よ餘ふ色ふ宮ふ

風

梢の桃乃油ふ

[illegible]橋より墓を[illegible]れて[illegible]を書山画屏と
[illegible]も丹青いまゝの[illegible]
[illegible]の芙蓉[illegible]かされる毎採蓮のたやの
なる事もかなもいと恋月を渡るゝ[illegible]と
いふる絵[illegible]

蓮の骨[illegible]い[illegible]女乃戸[illegible]れ

百士ちり[illegible]を[illegible]飛隣院をらも[illegible]原[illegible]の
巷ゝ[illegible]れた[illegible]地初[illegible]を[illegible]

[illegible]いつれ[illegible]人の[illegible]を[illegible]の
[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]
年[illegible]時[illegible]て[illegible]山代
[illegible]を元の[illegible]を[illegible]ありて[illegible]や
[illegible]の[illegible]や[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]民[illegible]恩の徳面[illegible]肆屋の
[illegible]く貪村[illegible]ひ竈を[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の

月の浦に行て和の風俗を種々聞
信濃より入賀茂と書て胡瓜の風俗なり
高い老年の若菜を手に摘よわるぬ梢にて
春の色に栄ふ山の花よ遠き山中に
人捨る事なかや上野の花乃高原に春に
目黒吉中の歩摘をそとや詠んとなりか
ゝ摘よれりんかるるも所に其雨ふるぬ
朝か二月下旬城原を地のしら雪と流れぬ

虱をとる雑

ちゝ毛牙乃毛いとちゝ様のかとうく
しきるの仮粧の中に有物にもりて
さゝら疾く敷しゝちゝ称二重に巻く
渠のさ面を窮いたるよ白き肉黒き腸
呼吸よはまて動く眼きらくとんもえ
ゑ見ロワク六ワ
護摩の中

戯に詩を作りなし蟻や虱死乃
人の床にハかくれたり床をはなれむきおもむと
しりて本州にハあらされハまさに死すへきや
虎にハ向ふ切かおそろしとおもふこそさと
蛍やとう燈の為へされ虫をまねる物にハ
唄ふときねハあやれ為られハたゞちに今かしみ
うれらハ詩骨のあるむひも共に風化
まへがく善虫にあらりたる児のこすに純ぞ

かく世ようとみ果ら純なる業虫れなるとそ
拙られ臭穢の中に質紙禀(ウケ)て褌に潜り
ぬひ出まかられ人の血気を犯し吸とく
蚊子の毒牛紙嘘より極悪し其の虫
蜜乃類なる家にも出られ中に餌き網し
そい木々にての角にかしむ翻まいよされぬ
されど素れの性のそてなりや麻に謁なるとう
いへる魚の大百虫旬より蟭螟の微細なる

[illegible]て悟をうるの形[illegible]
[illegible]れ　内裏より[illegible]化行[illegible]の
御物の光より一束[illegible]拾もてるよりの
化乃[illegible]治り[illegible]智識の机より引まして
徳を回し[illegible]れるまゝ同[illegible]や
相の宮より生[illegible]旧年の然人[illegible]
新[illegible]いふ[illegible]てんと加[illegible]
[illegible]り給り[illegible]て[illegible]れ[illegible]より

[illegible]
法[illegible]
測[illegible]
[illegible]
志[illegible]
衣被[illegible]

蕣の[illegible]

時序

花は財しるを伝かうんを花をしみ
あんん白い花は雪之雪花は同雪也
かるる行う流あはそれは陸の雪也
ゆるる時を西

児業序

雲雲いかりは雲かちは雲かを雲

陳は藤を鈴自まを雪新今やと沼る
魯山の凡中小指きしく百雪代雪の
又よしを新は新あれはさをうん
そのよ乃母を沼点なり
茅を陸は沼やりき里ちて
右の児は機茅をさを雪まりるつ人
大魚岡牛法岩八匡亀園光潮沼設の
一典沼の雪のちしして書

其袋序

かにくもてて天の岩戸わけ出る色
入相の人よりもつくろふ母の秋の葉
うたはんとそそ父よ長うたをおぼしき
そそ〜袋のからきめんもいつよ言く
底の〜袋口もむもそをのうきわる
なる嘘袋い清浦乃名川系いわに
我そつきかりきあ武士よ富袋かり

貴職よ史袋かり育よけるかるる
いるる物と入るる詩の袋とりや春山
春月も季賀ら農よおり〜京ゆくろい
光陰の初きもり袋るれもやおもりむ
為憲ら袋とゆんとわい長ゆかりて
むつ〜袋よ具ゆく紙や花の春ゆる
月のけるれく拾ひゆるかいかく
歌の秋袋かくろに栄よき世

猶もかの元祿三年かの年の
九月晦日の序

吊翁辭

いつの冬の風のうしろむきなる蔦の
葉もおりてからの秋ちり去るまちり杖ばかり
笠は眠るを小春なるつゐの浮世を雜炊は
かゝる枯野なるかと思へば一句成

と文のうゝよりの共角ハ俳諧なるや
世前の對面坂のうちにて立ゐつゝ
業紀境のムこいはいまさらなるやたゞ
ハ記ゝうゝ紙をせる雅れこゝろくは
庵をかゝて追善供のムさく独る被
ゐうしいうゝて往よ歩をこれ冨士もこゝて
大井りらぬ京をけく第月七日の
西の法ゝよりこゝは義仲寺の塚上て

[illegible]

仙禮一碧を記るすれい万象を[illegible]師

この乃ゝ於ゝ自利し他を利ゝ弥よ

[illegible]石調今もたゞ人とも[illegible]人ゝ

[illegible]よかく眠るん事佛

唐乃蚊讃

唐の蚊ゝ詩人を喰つゝ肥て桃の

ゝゝ[illegible]の蚊ゝ[illegible]人の性よこゝし

[illegible]て柳[illegible]

唐の蚊や弥よ枯る藻塩草

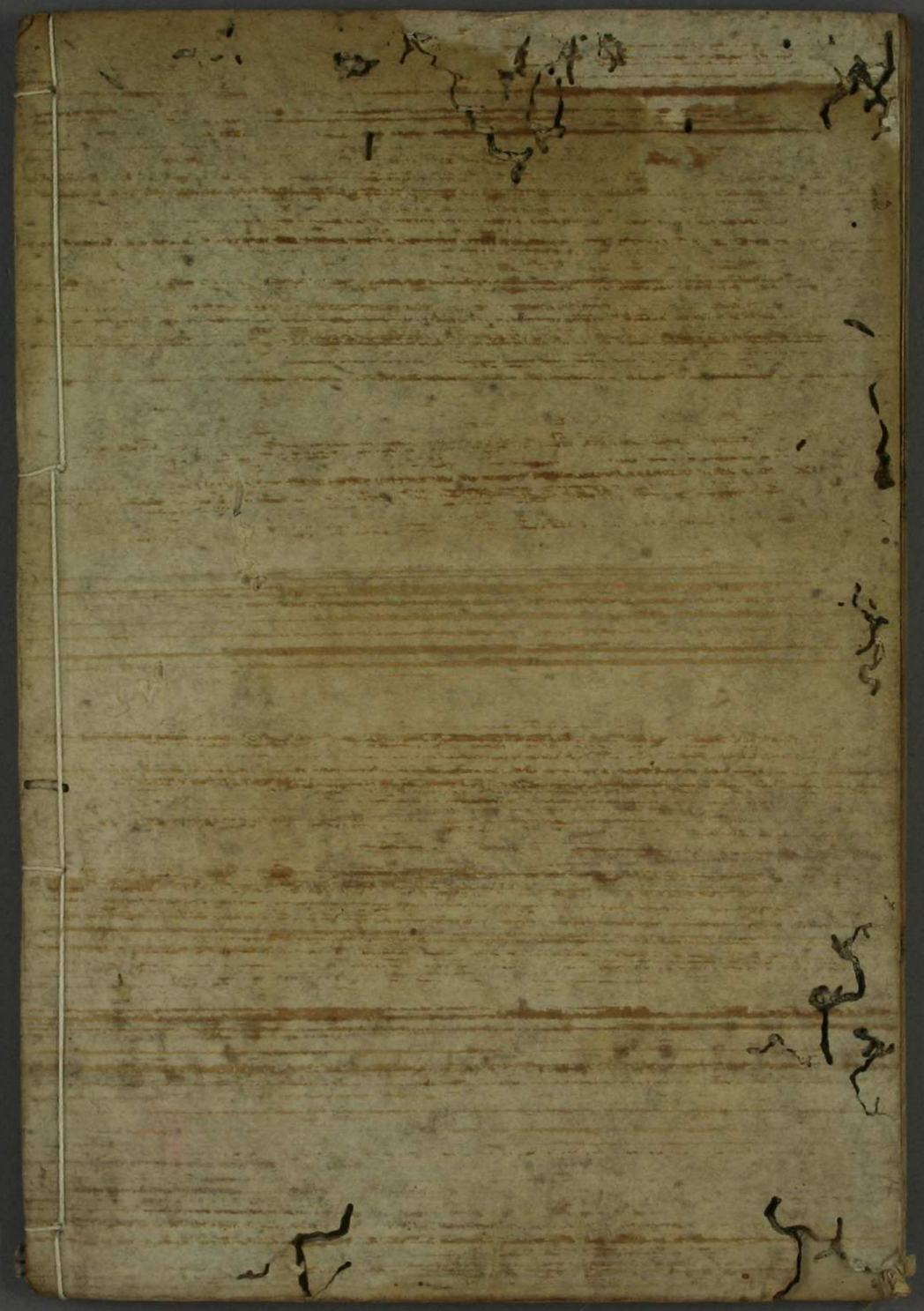
右一章い鶴樓先生の作なれ唐成よ
蚊の源乃ゝ[illegible]ゝ今在
いせ乃伊ゝ又事武も拾ぶゝ

黒茶碗銘

黒茶碗の[illegible]花の[illegible]

雪はなほいよ〳〵ふる月は春の暗成
さくら園春よ窟はられ〳〵はをのくつら
わらはまゝ〳〵うりあるこ〳〵

撿挍　貧僧　大愚　小ろろ
ちはまよ　ふゆる　小雲在

二代ゆとのんふのんこゝて杉ゝうき
言葉のも秘しさ言〳〵ゝ沙も
杉雪はれふんもいふ風ふ雪繞

井田高義